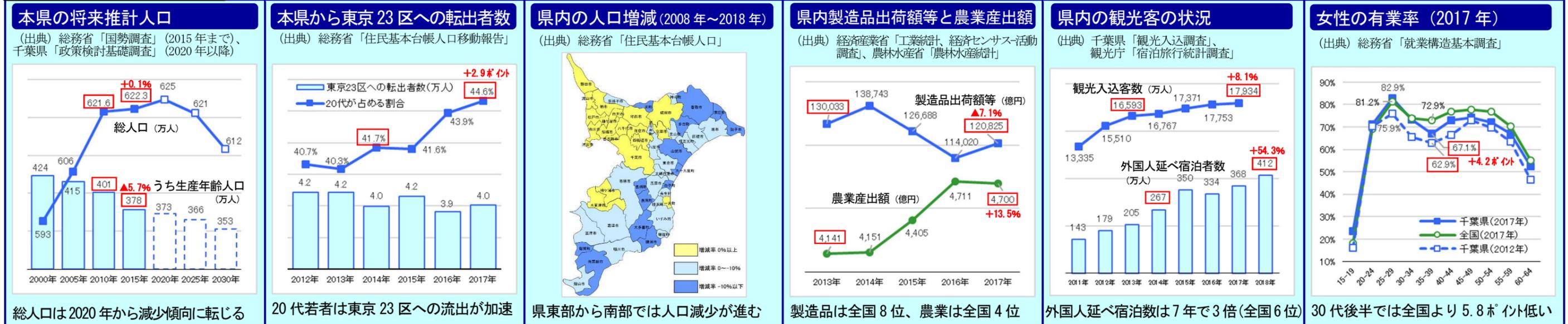


次期「千葉県地方創生総合戦略」（令和2年度～令和6年度）の検討に向けた基本方針

資料1-1

令和元年8月2日
総合企画部政策企画課

本県を取り巻く状況の変化



現戦略の計画期間における現状分析(成果と課題)

	主な成果	主な課題
産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ○県内での企業立地が促進 <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業立地件数は、2018年までの4年間で246件増加 ・新たに「茂原にいほる」「袖ヶ浦椎の森」2工業団地を造成・分譲 ・人口減少等により廃校になった空き公共施設への企業誘致が進展 ○農作物の新品種開発が進展 <ul style="list-style-type: none"> ・チーバベリー(いちご)や、Qなっつ(落花生)、粒すけ(米)等 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な分野において人手不足への対応が急務 <ul style="list-style-type: none"> ・本県の生産年齢人口は、2030年にはピーク時の約8割に ・県東部・南部では人口減少に歯止めがかからない状況 ○魅力ある雇用の場の創出のため、地域産業の振興・高付加価値化による競争力強化が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・製造品出荷額等は順位を下げ、2017年では全国8位に ・農業産出額は増加傾向にあるものの、依然として全国4位 ○若者の東京流出に歯止めをかけることが必要 <ul style="list-style-type: none"> ・東京23区への転出者数は横ばいであるのに対し、そのうち20代の若者が占める割合は全体の半数近くを占めている
交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外からの観光客が急増 <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数は5年連続で過去最高を記録し、特に外国人延べ宿泊数は7年間で約3倍に増加 ○東京2020オリンピック・パラリンピック8競技の開催地に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ○急増する観光客の県内周遊の促進が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・本県を訪れる観光客は日帰り客が多く、周遊エリアも成田空港周辺や千葉・浦安地域に集中 ○千葉県民としてのアイデンティティの醸成が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・特に若者に地元に対する関心や地域を支える熱意を持っていただき、地元に着用していただくことが課題
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て環境の整備が進展 <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度までの4年間で保育所の定員が約17千人の大幅増 ・2017年度から保育士の処遇改善(月額2万円の給与上昇)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○若者や女性が活躍できるような環境づくりが必要 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所待機児童数は1,392人(2018年4月1日時点)と依然多く、特に都市部での待機児童解消が課題 ○高齢者が活躍し続けられる環境づくりが必要 <ul style="list-style-type: none"> ・本県の高齢率は、2015年の25.9%から2030年には31.5%へと急速に高まると見込まれている
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○道路など交流基盤の整備が進展 <ul style="list-style-type: none"> ・アクアライン通行料金の引き下げ継続、圏央道の神崎・大栄間開通、外環道の三郷南・高谷間開通 ○成田空港の機能強化が促進 <ul style="list-style-type: none"> ・2018年3月の四者協議会において、更なる機能強化について最終合意 	<ul style="list-style-type: none"> ○人やモノの流れを活性化させる交流基盤の更なる整備が必要 <ul style="list-style-type: none"> ・アクア料金引き下げ継続、圏央道など高規格幹線道路やアクセス道路の整備、成田空港の更なる機能強化等の着実な実施が課題 ○地域で快適に暮らせる生活環境づくりが必要 <ul style="list-style-type: none"> ・県外に移りたい理由は、「生活環境をより良くしたいから」「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」が約4割で最も高い

次期戦略における施策の基本方針(案)

目指すべき将来の方向(案)

人口の将来推計等を踏まえ、本県が2060年頃までに目指すべき将来の方向を提示

- ①誰もが希望を持って地域に住み働ける千葉の実現 ～次世代を牽引する千葉づくり～
 - ・AI・IoTやドローンなど先端技術の利活用により、企業の業績や従業員所得の向上、在宅勤務など場所を選ばない働き方の実現
 - ・県内間の道路アクセスの飛躍的な向上や成田空港の更なる機能強化により、企業取引の一層活発化、移住や二地域居住等の普及
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催効果の波及により、観光産業が県経済を支える主軸に成長
- ②親子の笑顔が溢れる千葉の実現 ～少子化への挑戦～
 - ・一人ひとりの子どもを地域社会全体で大切に育むという意識の浸透
 - ・誰もが出産・子育てに係る希望がかなえられる社会の実現
 - ・男女問わず、家庭と仕事・地域活動等のバランスが取れたライフスタイルの実践
- ③オール千葉で支え合う安全・安心に暮らせる千葉の実現 ～人口減少に対応した県づくり～
 - ・人生100年時代の到来により、仕事や趣味を楽しみながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる環境の実現
 - ・ICTの発達に伴う移動手段の多様化・自動化や遠隔医療など在宅医療の高度化により、快適な生活環境の実現
 - ・まちづくりに空間的な余裕が生まれることにより、誰もがより豊かに日常生活を送ることができる環境の実現

施策推進に当たり踏まえるべき新たな視点(案)

- 地方創生の深化に向け取組を加速するため、従来の施策に加え、以下の視点を追加
- ◎様々な分野における人材の確保・育成
 - 生産年齢人口の減少や東京一極集中などにより喫緊の急務となっている各分野における人材不足への対応を図る。
 - ◎地域産業の高付加価値化
 - 「魅力ある雇用の場」の創出に向け、ICT等先端技術の利活用や、新分野への事業拡大などにより、生産性向上や高付加価値化を図る。
 - ◎地域ごとの特性を生かした自主的な取組への支援
 - 各地域がそれぞれの特性を生かし、持続的な発展を遂げられるよう、各地域による意欲的な取組を支援する。
 - ◎東京2020オリンピック・パラリンピック開催効果の取り込み
 - 東京2020オリンピック・パラリンピック開催効果の面的・継続的な波及を図り本県の更なる発展につなげる。

施策推進に係る基本目標(案)

1. (仮) 次世代の千葉を支える人づくりと仕事づくり
 - 県内産業を支える多様な人材の確保・育成や、生産性向上・高付加価値化の促進等
2. (仮) 県内外に発信する魅力づくり
 - 「魅力の宝庫ちば」の国内外への積極的な発信、県民による地域の魅力の再認識等
3. (仮) 誰もが活躍できる環境づくり
 - 若者、女性、高齢者、障害者、外国人など誰もが活躍できる環境づくり
4. (仮) 快適に暮らせる環境づくり
 - 交通網の整備や空港の機能強化、バリアフリー化の推進、防犯・防災の取組強化等

□: 直近の実績値と、現戦略策定時(2015年)との比較